



地域医療
支援病院

災害拠点
病院

地域がん
診療連携
拠点病院

患者サポートセンター広報誌

九州労災病院

九労 Hello! ハロー

理念 地域住民と勤労者の皆様に、良質で安全な医療を提供します。

- 基本方針**
- 患者さんの権利を尊重し、患者さん中心の医療を提供します。
 - 地域医療機関との連携を重視し、中核病院として高度専門医療を担います。
 - 働く人々の健康を守り、治療と仕事の両立を支援します。
 - 患者さんに寄り添う心と、高い技能を兼ね備えた医療人を育成します。
 - 経営基盤が安定し、働き甲斐のある病院づくりを目指します。

2020.October vol.84



消化器内科



後列左から 武内医師・藤山医師・橋本医師・倉重医師・多田医師・松口医師
前列左から 西嶋医師・板場部長・田中医師・國吉部長

消化器内科

大腸カプセル内視鏡を導入しました

消化器内科 部長 **板場 壮一**

コロナ禍の中、皆様におかれましては大変な困難な状況で診療を行われていることと推察いたします。このような状況ではありますが、コロナ禍以前よりあった疾患はそのまま存在し、癌に関してはコロナ禍以降に早期受診の遅れや検診受診率の低下から進行度が進んだ状態で発見される例が増えているとの報告もなされています。大腸癌に関しては 2017 年の罹患数は癌種の中で第一位と増加傾向にあり、早いステージで治療ができれば根治が目指せる癌であるが故に早期発見が望まれます。

今回は大腸内視鏡検査の新たな選択肢として本年8月から当院で導入しました大腸カプセル内視鏡の紹介をいたします。

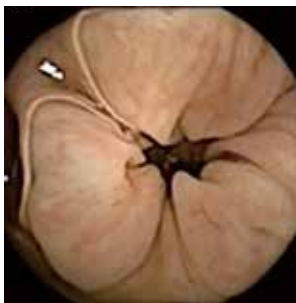
2000年に小腸カプセル内視鏡という画期的な小腸内視鏡が報告され、2007年より本邦においても認可されました。当院でも2012年より小腸カプセル内視鏡を導入し、年間約30例程度の小腸カプセル内視鏡検査を行っています。

一方大腸カプセル内視鏡は2014年より本邦において認可されております。大腸カプセル内視鏡が小腸カプセル内視鏡と異なる点は小腸カプセル内視鏡のカメラが片側にしか付いていないのに対して、大腸カプセル内視鏡はカメラが両端に付いており、より死角のない検査が可能となります。

またカプセルの移動速度を自動認識し、撮影枚数を毎秒4～35枚に変えることができます。それにより早く移動する場合にたくさん撮影して見落としを減らすことが可能になります。

術後の癒着等で大腸内視鏡の実施が困難である症例や、大腸内視鏡を行ったものの回盲部まで到達できなかった症例などが最もよい適応になります。当院でも希望者には十分な呼吸循環動態のモニタリングのうえで鎮痛薬や鎮静剤を用いて大腸内視鏡検査を行っていますが、一定の確率で回盲部まで到達できなかったり、回盲部まで到達はできたものの苦痛が強かったりする患者さんがいらっしゃいます。そのような患者さんには次回の検査の際には大腸カプセル内視鏡を検査の選択肢の一つとして提案できると思います。

ただ通常の大腸内視鏡の場合は大腸がきれいになっていればよいのですが、大腸カプセル内視鏡の場合大腸がきれいになっていることと、時間内に大腸カプセルを肛門まで押し流さないといけないことより、通常の大腸内視鏡の下剤の量より多く下剤を服用しなければならないという難点があります。また腸閉塞の既往がある患者やペースメーカーが入っている患者には行うことはできません。



▲ カプセル内視鏡画像
(筆者の上行結腸の写真)

私自身まず自分で大腸カプセル内視鏡を体感してみました。写真は私の腸の中ですが、残渣もなく、全大腸観察が可能でした。下剤を飲むのはきつかったですが、大腸内視鏡において患者さんが最も懸念される痛みは全くありませんでした。

癒着のため大腸内視鏡が困難な患者さんや前回検査時に回盲部まで到達しなかった患者さんがいらっしゃいましたら当科にご紹介いただければ幸いです。



▲ 実物大 (大腸カプセル内視鏡)

▲ 大腸カプセル内視鏡

▲ 小腸カプセル内視鏡

今年度は当科スタッフも消化管専門の医師が1名、膵・胆道系専門の医師1名、計2名の増員がなされ、消化管専門の医師への紹介を毎日受けることが可能になりました。また膵・胆道系専門の医師が増えることで胆管炎や膵炎など急患にも確実に対応できるようになりました。今年4月ががん診療連携拠点病院になったこともあり、より一層胃癌や大腸癌、肝癌や膵癌、胆道癌などの消化器癌の診療に力を入れていきたいと考えております。

今後とも九州労災病院消化器内科をよろしくお願いします。



開設から1年たちました!

当科は、2019年10月に開設し、当院での手術予定の患者さんや化学療法等により有害事象を起こし得る患者さんの口腔内管理を主に行なっております。また、日本口腔外科学会専門医であることを活かし、近隣の歯科医院で治療が難しい症例、CT撮影が必要な症例、および全身疾患を有した症例も引き受けております。最近では、多くの先生からのご要望もあり、全身麻酔や入院管理が必要な患者さんにも対応できるようになりました。下顎骨折等の外傷や良性腫瘍等も治療が可能ですので、当科に紹介すべきか迷うことがございましたら、まずは一度ご相談いただければと存じます。

口腔内の病変は診断に苦慮するケースが多くあります。特に粘膜疾患は歯科以外でも患者さんからのご相談が多い疾患です。ご紹介いたします。



歯科口腔外科 副部長
きたむら りょうじ
北村 亮二

Many diseases

ご相談の多い疾患

●白板症

潜在的口腔悪性疾患であり、悪性化することがあるため、厳密な経過観察が必要になります。近年、一般の方からも注目されており、相談件数が増加しております。組織検査を行ってから経過観察する事が多いです。



●扁平苔癬

扁平苔癬は角化異常を伴う難治性の疾患です。特徴としてはレース状の白斑とびらんによる発赤を生じます。白板症との鑑別が必要となるため長期的な経過観察が必要です。食事の際にしみる場合はステロイド軟膏の塗布を行います。



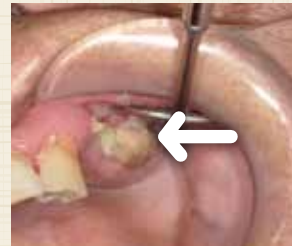
●口腔カンジダ症

カンジダ菌は、口腔内常在の真菌です。ステロイドの内服により免疫力が落ちた時や、全身疾患により抵抗力が低下した際に発症します。口腔内のどこにでも発症し、剥離が可能な白斑を生じます。口腔内の疼痛や違和感を伴うことがあり、早急に抗真菌薬の塗布が必要になります。



●骨吸収抑制剤関連顎骨壊死

骨粗鬆症の薬であるビスフォスフォネート製剤や骨吸収抑制剤を長期に投与すると、低い確率ですが顎骨壊死を発症します。壊死した骨を腐骨といいます。一度発症すると、歯が脱落し腐骨の洗浄や外科的な切除が必要になります。当院では治癒や腐骨分離促進のため、高気圧酸素療法を併用して行っております。



以上のような疾患は全身にも問題があることがあります。その際には、他科と連携して診療を行う場合もございます。また、他の疾患で治療中に口腔内に気になることがございましたら、お気軽に当科までご紹介ください。

患者サポートセンターをご利用ください

- 電話・FAXによる紹介患者さんの受診予約・事前受付
- MRI・CT・胃カメラ等の検査予約
- 救急診療のご依頼
- 転院に関する相談・紹介・問い合わせ
- 診療に関する様々な問い合わせ
- 患者さんに関する情報や返事が滞っている場合
- 診療情報提供書の発送業務
- 開放型病床利用に関すること
- セカンドオピニオン外来に関すること

お困りのことがあれば
ご連絡ください



九州労災病院

〒800-0296 北九州市小倉南区曾根北町1-1

TEL 093-471-1121(代表)

ホームページ

<http://www.kyushuh.johas.go.jp>



患者サポートセンター

患者サポートセンターSTAFF

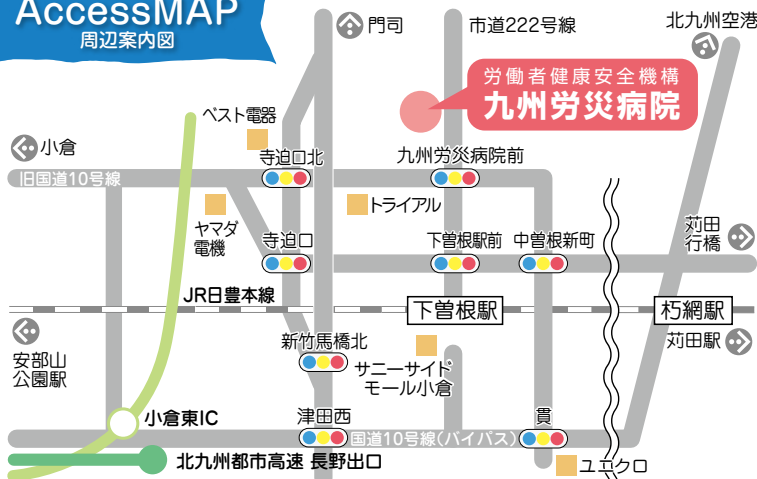
センター長	副院長	中島 信能
副センター長	看護師長	樋渡 英子
	医事課長	三浦 靖幸
入退院支援部門	看護師	岩崎 玲奈/安永 恵/松石 理英子 上原 敦子/河本 純子
社会福祉部門	M S W	坂出 友美/西村 ますみ/竹中 芳美 林 知夏
地域連携部門	事務	二見 誠司/武久 亜紀子/服部 晴朗 黒田 早苗

お問い合わせ先

入退院支援部門	代表電話	093-471-1121
社会福祉部門		
地域連携部門	直通電話	093-475-9686
	F A X	093-473-5903
共通	E-mail	renkei.renk-k@kyushuh.johas.go.jp

AccessMAP

周辺案内図



診療案内

受付時間	午前8時15分～午前11時
救急受付	急患は24時間随時受け付けます
診療時間	午前8時45分～午後5時15分
休診日	土曜日・日曜日・祝日 年末年始(12月29日～1月3日)
初診時 選定療養費	5,500円 診療情報提供書のご持参を お願いしております